

# 中小企業景況レポート

vol.79

2024.4~6

## 業況判断D I 4月~6月は3.6と3期連続でプラス

### 【2024年4月~6月期の業況判断D I】

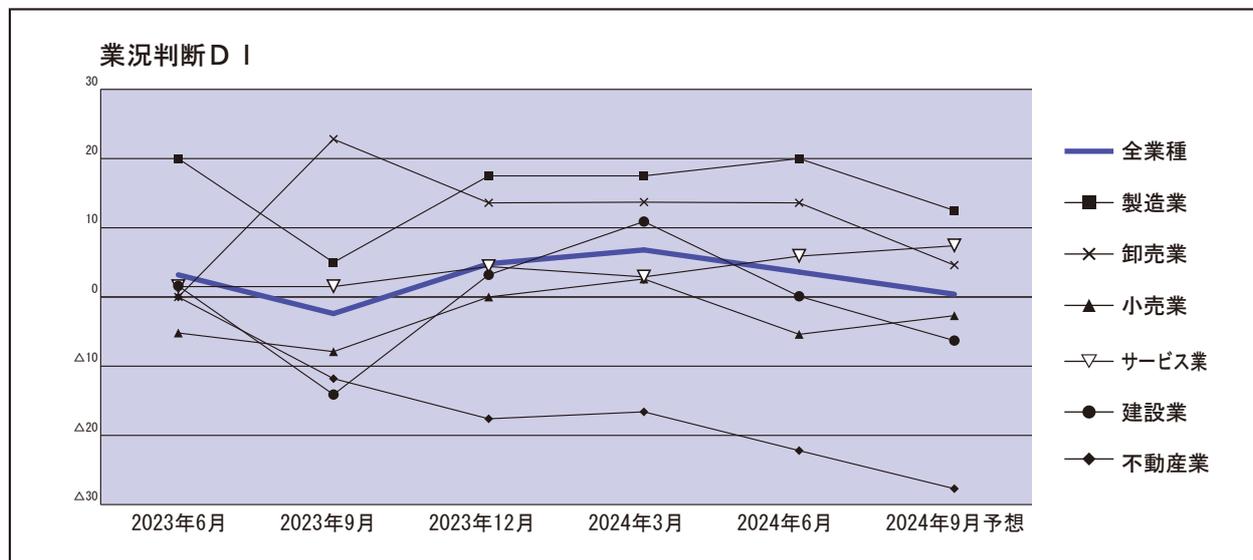
今回調査期間における全業種総合の業況判断D Iは前回調査比で3.2ポイント低下し3.6となりました。業種別では小売業と不動産業以外の4業種において業況判断D Iがプラスとなっています。

### 【2024年7月~9月期の予想業況判断D I】

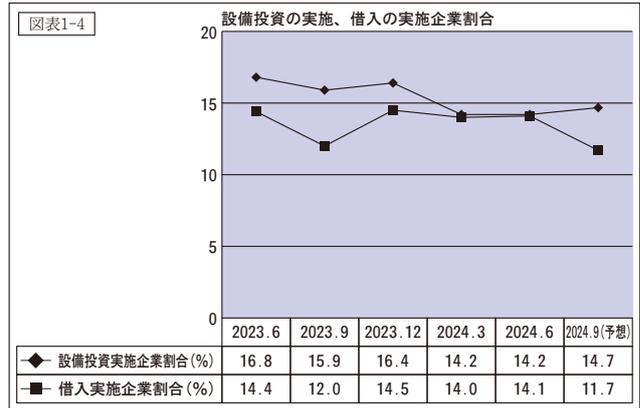
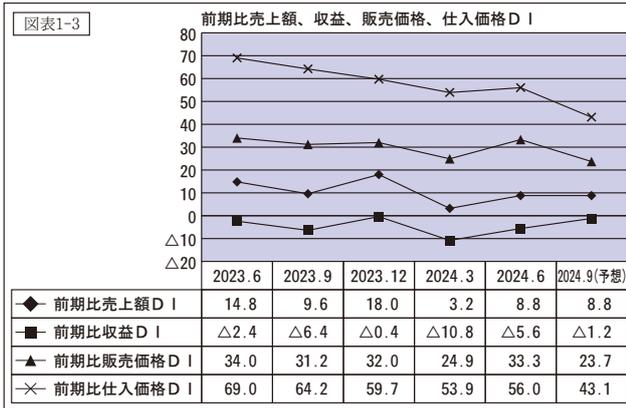
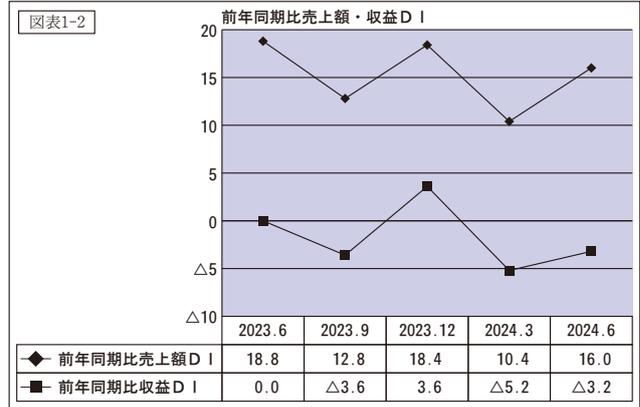
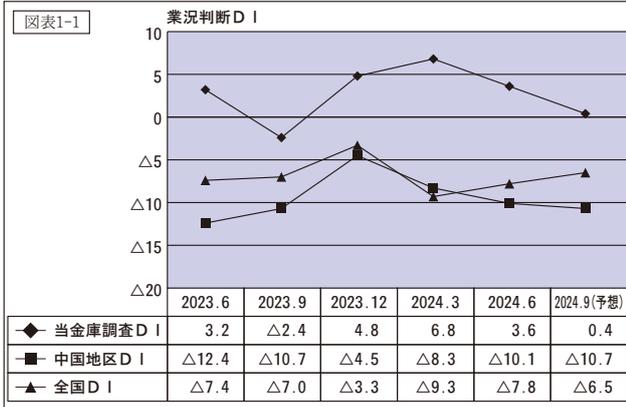
次回調査期間における全業種総合の予想業況判断D Iは今回調査比で3.2ポイント低下し、0.4の見込みとなっています。

業種名	時期	2024年 1月~3月		2024年 4月~6月		2024年 7月~9月 (予想)
全業種総合		6.8	↘ Δ3.2	3.6	↘ Δ3.2	0.4
製造業		17.5	↗ 2.5	20.0	↘ Δ7.5	12.5
卸売業		13.7	↘ Δ0.1	13.6	↘ Δ9.0	4.6
小売業		2.6	↘ Δ8.0	Δ5.4	↗ 2.7	Δ2.7
サービス業		2.9	↗ 3.0	5.9	↗ 1.5	7.4
建設業		10.9	↘ Δ10.8	0.1	↘ Δ6.4	Δ6.3
不動産業		Δ16.6	↘ Δ5.6	Δ22.2	↘ Δ5.5	Δ27.7

景況  
天気図  
の目安
 D I 好調 ←
 ☀️ 30以上
☁️ 10以上  
30未満
☁️ 0以上  
10未満
☁️ Δ10以上  
0未満
☔ Δ30以上  
Δ10未満
☔ Δ30未満
 → 低調



# 全業種総合



## 景況 ～業況判断D Iは3.6で3期連続のプラス～

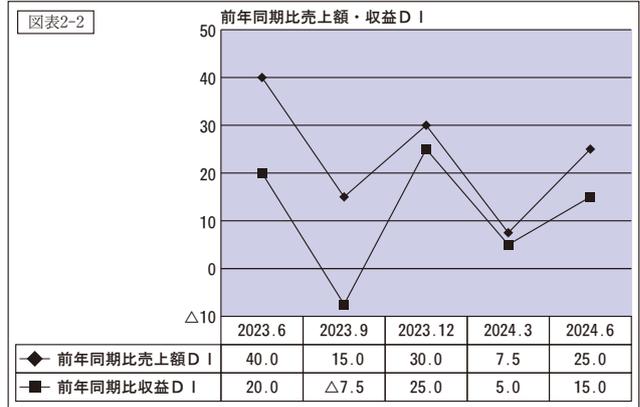
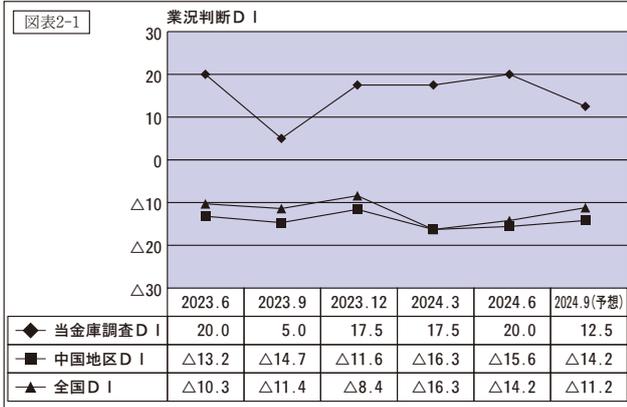
今期の業況判断D Iは全業種総合で6.8→3.6と前回調査比で**3.2ポイント低下**しましたが、3期連続で業況判断D Iがプラスとなりました。6業種中4業種において業況判断D Iがプラスとなっており、全体的に景況感が高めで推移しています。中国地区D I（△10.1）、全国D I（△7.8）と比較しても当金庫営業エリアにおける景況感が高めに推移しています。次回調査期間（2024年7月～9月）の予想業況判断D Iは3.6→0.4と、今回調査比で**3.2ポイント低下する見込み**となっています（図表1-1）。

前年同期比売上額D Iは16.0、同収益D Iは△3.2となっています。前年比で増収減益の傾向が続いており、物価高騰による販売価格増額と利益圧迫の双方の影響が出ているものと思われます（図表1-2）。

今回調査期間で設備投資を実施した企業の割合は14.2%となり、前回調査と同じ割合となりました。借入を実施した企業の割合は14.1%となり、前回調査比0.1ポイントの上昇となりました。次回調査期間に設備投資を予定している企業の割合は14.7%であり、今回調査期間に設備投資を実施した企業の割合と比較して0.5ポイントの上昇となっています。また、次回調査期間に借入を予定している企業の割合は11.7%であり、今回調査期間に借入を実施した企業の割合と比較して2.4ポイントの低下となっています（図表1-4）。

また、設備状況の見通しが「やや不足」「不足」と判断している企業のうち、設備投資をおこなわないと回答している企業が58.3%（前回調査比±0ポイント）となっており、半数以上の企業が設備投資を控える意向であることが窺えます。

# 製造業



## 景況 ～今期上昇 次回調査期間は低下の見込み～

今期の業況判断D Iは17.5→20.0と前回調査比**2.5ポイントの上昇**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D Iは20.0→12.5と**7.5ポイント低下する見込み**となっています(図表2-1)。

今回調査期間中に日本銀行より発表された岡山県金融経済月報によると、県内主要製造業の生産は「海外経済の回復ペース鈍化の影響を受けつつも、供給制約の影響が和らぐもとで、持ち直している」との判断となっています。生産種別で個別に確認すると鉄鋼は自動車向け等の回復から、持ち直しとなっています。

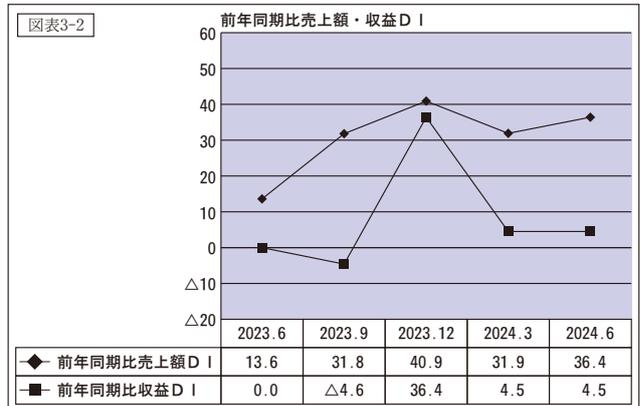
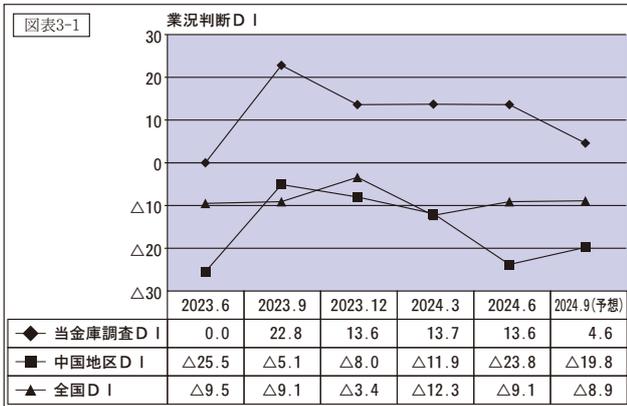
経営上の問題点としては「原材料高」と回答する企業が増加し最も多くなっています。当面の重点経営施策においては利益確保のため「販路を広げる」、「経費を節減する」との回答が多くなっています。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	原材料高	57.5%	売上の停滞・減少 人手不足	30.0% 30.0%	利幅の縮小	27.5%
当面の重点経営施策	販路を広げる	52.5%	経費を節減する	42.5%	人材を確保する	32.5%

# 卸売業



## 景況 ～今期低下 次回調査期間も低下の見込み～

今期の業況判断D Iは13.7→13.6と前回調査比**0.1ポイントの低下**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D Iは13.6→4.6と**9.0ポイント低下する見込み**となっています(図表3-1)。

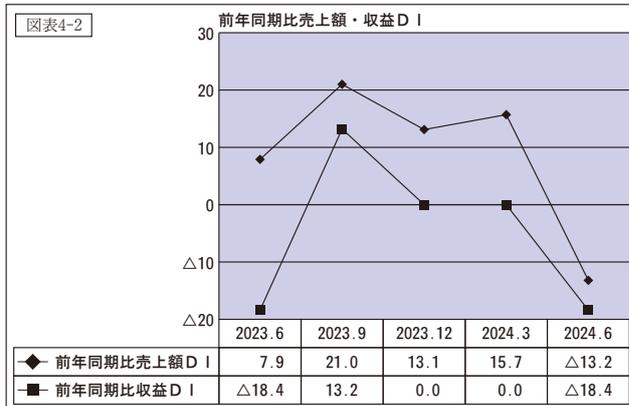
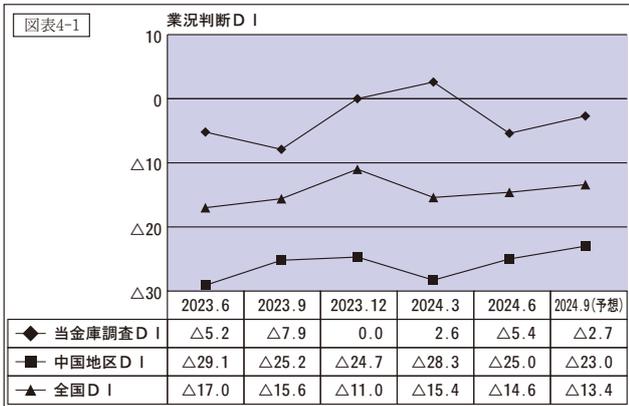
経営上の問題点としては「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の回答が最も多く、それに対応した「販路を広げる」、「情報力を強化する」を重点経営施策とする企業が多くなっています。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少 同業者間の競争の激化	36.4% 36.4%	利幅の縮小	31.8%	仕入先からの値上げ要請	27.3%
当面の重点経営施策	販路を広げる	72.7%	経費を節減する	36.4%	情報力を強化する 人材を確保する	18.2% 18.2%

# 小 売 業



## 景 況 ～今期低下 次回調査期間は上昇の見込み～

今期の業況判断D Iは2.6→△5.4と前回調査比**8.0ポイントの低下**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D Iは△5.4→△2.7と**2.7ポイント上昇の見込み**となっています（図表4-1）。

経営上の問題点において、「売上の停滞・減少」の回答が最も多くなっています。「同業者間の競争の激化」と回答する企業も多く、顧客の奪い合いにより売上シェアが減少していることが考えられます。

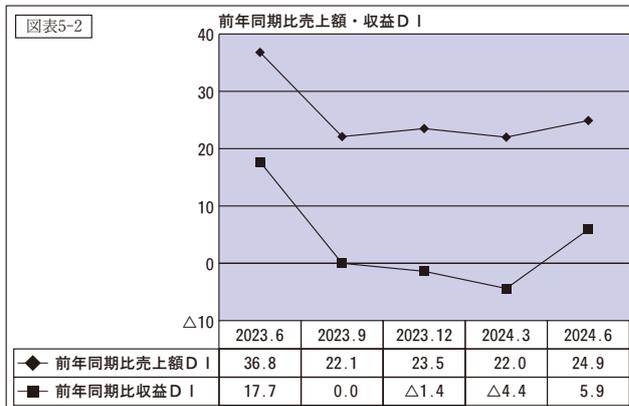
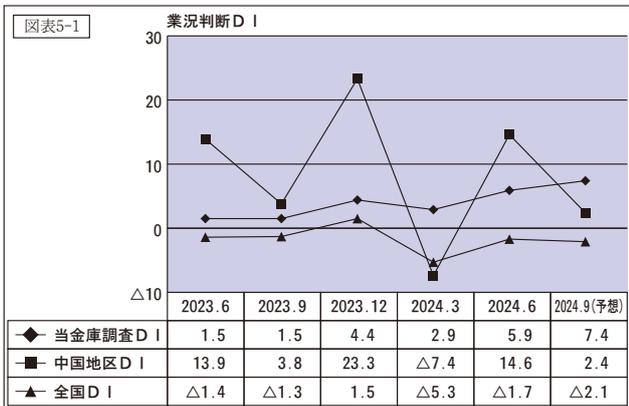
当面の重点経営施策では利益確保のため「経費を節減する」の回答が最も多くなっており、また、問題点に対応するため「売れ筋商品を取扱う」と回答する企業が増加しています。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	34.2%	同業者間の競争の激化	26.3%	利幅の縮小	23.7%
当面の重点経営施策	経費を節減する	36.8%	販路を広げる	31.6%	売れ筋商品を取扱う	28.9%

# サービ 業



## 景 況 ～今期上昇 次回調査期間も上昇の見込み～

今期の業況判断D Iは2.9→5.9と前回調査比**3.0ポイントの上昇**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D Iは5.9→7.4と**1.5ポイント上昇の見込み**となっています（図表5-1）。

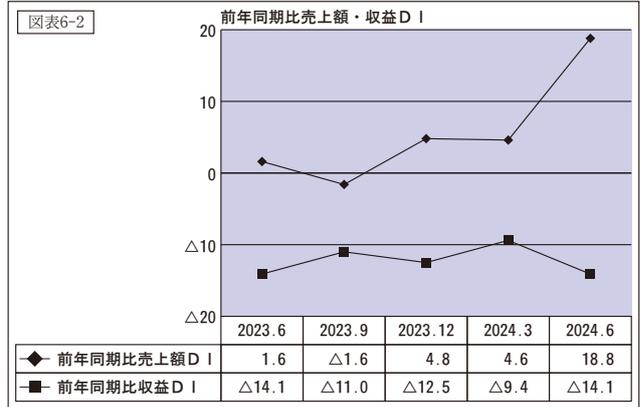
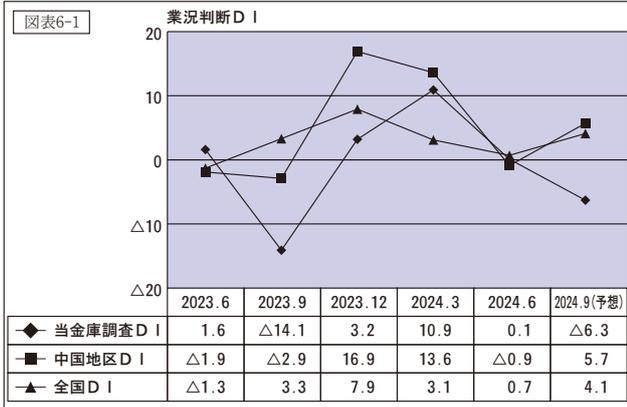
経営上の問題点として引き続き「人手不足」の回答が最も多くなっています。当面の重点経営施策では、利益確保のため「経費を節減する」の回答が最も多くなっています。また、「人材を確保する」の回答も引き続き多く、人材確保に苦慮している企業が多いことが分かります。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	人手不足	32.4%	材料価格の上昇	30.9%	売上の停滞・減少	25.0%
当面の重点経営施策	経費を節減する	42.6%	人材を確保する	36.8%	販路を広げる	25.0%

# 建設業



## 景況 ～今期低下 次回調査期間も低下の見込み～

今期の業況判断D Iは10.9→0.1と前回調査比10.8ポイントの低下となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D Iは0.1→△6.3と6.4ポイント低下する見込みとなっています(図表6-1)。

経営上の問題点として「材料価格の上昇」との回答が依然として最も多くなっており、業界全体での問題となっていることがうかがえます。また、「人手不足」の問題も引き続き多くなっています。

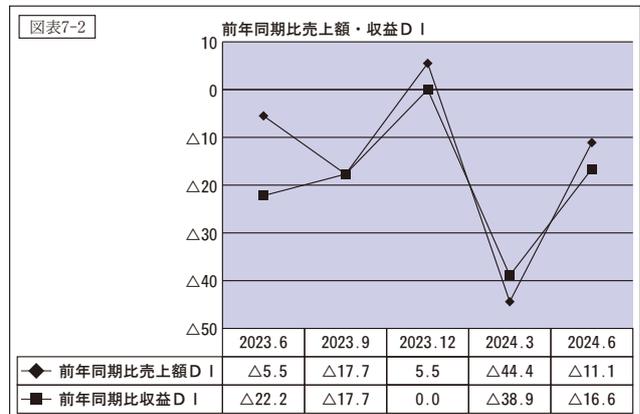
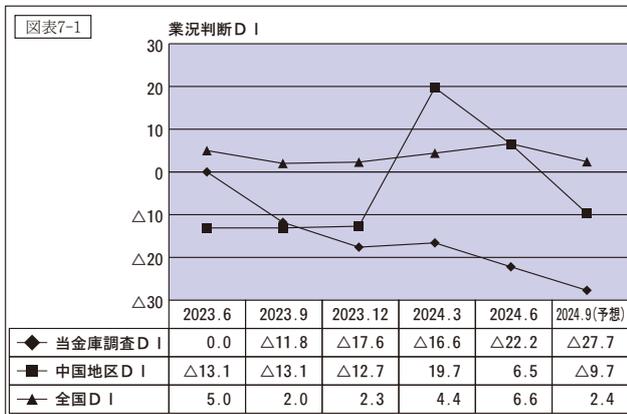
当面の重点経営施策としては問題点への対応として、「経費を節減する」、「販路を広げる」、「人材を確保する」と回答する企業が多くなっています。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	材料価格の上昇	56.3%	売上の停滞・減少 人手不足	23.4% 23.4%	同業者間の競争の激化	21.9%
当面の重点経営施策	経費を節減する	48.4%	販路を広げる	40.6%	人材を確保する	26.6%

# 不動産業



## 景況 ～今期低下 次回調査期間も低下の見込み～

今期の業況判断D Iは△16.6→△22.2と前回調査比5.6ポイントの低下となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D Iは△22.2→△27.7と5.5ポイント低下する見込みとなっています(図表7-1)。

経営上の問題点として「商品物件の高騰」の回答が増加し、最も多くなっています。「同業者間の競争の激化」も増加しており、「商品物件の不足」が要因となり、競争が続いていることが想定されます。

重点経営施策として「宣伝・広告を強化する」の回答が増加し最も多くなっています。また「情報力を強化する」との回答も引き続き多く、同業他社との差別化やシェアの拡大を目指す企業が多くなっています。

## 経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	商品物件の高騰	50.0%	売上の停滞・減少	44.4%	同業者間の競争の激化 商品物件の不足	38.9% 38.9%
当面の重点経営施策	宣伝・広告を強化する 情報力を強化する	44.4% 44.4%	販路を広げる	38.9%	経費を節減する	33.3%

## 調査先企業の声

### 製造業

- ・主要取引先からの受注が減少傾向。短納期対応の強みを生かし、価格交渉を進めていきたい。【金属加工】
- ・材料費が上がっており、利幅が取れない状況。利益率アップに向けた施策が必要。【建築用資材】
- ・円安の影響で収益悪化傾向。今後は取引先に対し価格交渉を積極的におこなっていく方針。【ビニール・化学製品】

### 卸売業

- ・百貨店への卸売りをメインとしているが、受注減少しており売上低迷販路拡大が課題。【インテリア用品】
- ・不採算部門を無くし、人員の再配置を実施。営業人材の増加により取引先増加傾向となっている。【紙類】
- ・売上回復傾向にあるが、物価上昇に伴い利幅が縮小している。経費削減が当面の課題。【自動車部品】

### 小売業

- ・中学、高校の教科書をメインに卸売りをおこなっている。デジタル化の影響は少なからずあるが、ある程度堅調に推移する予想。【書籍】
- ・配達先を近隣に絞ったことでコスト削減につながり、前年より利益確保できている。【青果】
- ・売上増加、事業規模拡大中。在庫確保のスペースが必要であり、新たに倉庫を賃貸する予定。人手も確保する必要がある。【雑貨等インターネット販売】

### サービス業

- ・個人消費が落ち込んでいるのか、コロナ禍が明けたものの思ったほど来店客が戻らない。メニュー価格の値上げをしているが、それ以上に仕入価格の上昇が続いている。【焼肉】
- ・自動車の性能が上がり事故が減少していることに加え、多少の傷では修理しないケースも増えており、売上減少傾向。洗車サービスのFC契約を締結し、売上増加を目指している。【自動車整備】
- ・事業は順調で増収傾向ながらも、人材不足が深刻化している。【学習塾】

### 建設業

- ・基本主要1社のみの取引であり、受注額の変動が大きい。県外含めた取引先の拡大をおこなう必要がある。【内装】
- ・公共工事主体であり受注が不安定。民間工事獲得に向けた施策を思案中。【水道工事】
- ・大手ハウスメーカーの下請けをしている。これまでは問題なかったが、新築住宅価格の高騰が続いており、着工件数の減少を懸念している。【住宅建築】

### 不動産業

- ・建材価格高騰により土地がなかなか売れない状況。しばらくは様子を見る。【不動産管理・土地開発】
- ・貸事務所を所有している。入居者は長年固定されており、退去予定もないため業況安定。【不動産賃貸】
- ・土地建物価格上昇により、顧客のローン借入総額も上昇。ローンが否決となるケースも増えており、思ったように売り上げが伸びない。【不動産仲介】

# おかやましんきんビジネスローン 「夢応援団」のご案内

おかやま信用金庫では、法人のお客さま専用にあらゆる事業性資金にスピード対応できる商品を取扱いしております。ご利用に関するお問い合わせは、お取引いただいております当金庫営業部店または価値創造部までご連絡ください。

## 記

### <商品の特徴>

- ・スピード審査（仮審査は、15:00までの受付は当日回答）
- ・担保不要
- ・信用保証協会対象外業種である農林水産業の法人もご利用可能
- ・「期限一括返済」が可能
- ・一定の条件を満たせば、創業資金への対応可能
- ・3段階の金利設定

### <商品説明>

1. 商品名  
おかやましんきんビジネスローン「夢応援団」（株式会社クレディセゾン保証付）
2. 対象者  
以下の要件を全て満たし、株式会社クレディセゾンの保証が受けられる法人のお客様
  - ・原則として当金庫に口座を保有している業歴2年以上の法人
    - ※業歴2年未満でも、商工会議所や商工会などの創業支援組織に加盟し、当金庫が推薦する場合は可とします
  - ・信用保証協会対象業種であること。ただし、農林水産業も可とします
  - ・当金庫の営業区域内に本店または支店を置く法人
  - ・反社会的勢力に該当しない方
  - ・当金庫の会員であること
3. 資金用途  
事業資金（借換も可）
4. 融資限度額  
10万円以上500万円以下（1万円単位）、ただし業歴2年未満の場合は200万円を上限とします
5. 融資期間  
6ヵ月以上10年以内（業歴2年未満の場合は5年以内）  
※期日一括返済の場合は最長1年以内
6. 返済方法  
毎月5千円以上の元金均等返済、または、期日一括返済（毎月利払い、最終期限に元金一括返済）
7. 融資利率（保証料込み）  
固定金利
  - ・パターン1／年4.00% ・パターン2／年7.00% ・パターン3／年11.00%※金利については、審査のうえで決定させていただきます
8. 担保  
不要
9. 連帯保証人  
法人代表者様（実質的支配者であり、申込時年齢が20歳以上の方）
10. 保証会社  
株式会社クレディセゾン

以 上

## 調査の要領

- 1) 調査時点 2024年6月3日～7日
- 2) 調査対象期間 2024年4月～6月
- 3) 調査対象 250企業（有効回答数250企業・回答率100.0%）
- 4) 調査方法 おかやま信用金庫各営業部店の職員による聞き取り調査
- 5) 分析方法 各質問事項で「良い」（上昇）とした企業が全体に占める構成比と、「悪い」（低下）とした企業の構成比との差（判断DI）を中心に分析  
※DI＝ディフュージョン・インデックスの略  
一般にプラスは好調、マイナスは不調を示す（仕入価格DIについては逆）
- 6) その他 全国DIならびに中国地区DIは、全国の信用金庫が中小企業約16,000先を対象として調査し、信金中央金庫が取りまとめた数値を使用

## 回答率

（単位：先、%）

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
回答企業数	40	22	38	68	64	18
回答率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

## 従業員数

（単位：先）

業種 (単位：人)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
0～9	22	14	29	47	48	16	176	70.4%
10～19	5	4	4	7	10	2	32	12.8%
20～29	6	3	1	6	6	0	22	8.8%
30～49	3	0	3	4	0	0	10	4.0%
50以上	4	1	1	4	0	0	10	4.0%
計	40	22	38	68	64	18	250	100.0%
構成比	16.0%	8.8%	15.2%	27.2%	25.6%	7.2%	100.0%	

## 資本金

（単位：先）

業種 (単位：千円)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
10,000未満	20	7	24	37	34	8	130	52.0%
10,000～49,999	17	15	13	28	30	10	113	45.2%
50,000～99,999	3	0	1	2	0	0	6	2.4%
100,000以上	0	0	0	1	0	0	1	0.4%
計	40	22	38	68	64	18	250	100.0%
構成比	16.0%	8.8%	15.2%	27.2%	25.6%	7.2%	100.0%	

## 編集後記

今回調査期間における全業種総合の業況判断DIは前回調査比で3.2ポイント低下し3.6となりましたが、6業種中4業種において業況判断DIがプラスとなっており、全体として景況感が高めで推移しています。物価高騰や人材不足は業種を問わず共通の問題となっており、次回調査以降も業況推移を注視する必要があります。おかやま信用金庫では引き続き、地元岡山の中小企業の皆様の実情をしっかりと把握したうえで、迅速で最適な支援をおこない地域経済を支えてまいります。



おかやま信用金庫  
価値創造部

— 2024.9 —

〒700-8639 岡山市北区柳町1丁目11番21号  
TEL:フリーダイヤル 0120-173-299(ガイダンス番号5)  
FAX:086-226-2288  
https://www.shinkin.co.jp/okayama/  
e-mail:sien@okayama.shinkin.jp